

学 事 報 告

1. 関西学院大学の動向

(1) 将来構想「Kwansei Grand Challenge 2039」の策定と中期総合経営計画について

関西学院は、「新基本構想（2009～2018）」の後継となる将来構想「Kwansei Grand Challenge 2039」を策定いたしました。この将来構想「Kwansei Grand Challenge 2039」は、創立 150 周年である 2039 年を見据えた超長期ビジョンと今後 10 年間の基本方針や方向性を定めた長期戦略からなります。

2039 年、日本は超高齢化社会になり、18 才人口が 3 割減少し、AI（人工知能）によって社会や仕事のあり方が劇的に変化します。この課題を解決するための具体的な処方箋として長期戦略を定めました。まず、卒業生が「“Mastery for Service” を体現する世界市民」として、「強さと品位」をもって社会や世界に貢献し「真に豊かな人生」を送ることを最終的な目標としています。その前提として、卒業時の「質の高い就労」（就職など学生が自ら志す進路に踏み出すこと）、さらに、これを担保するための「学生の質の保証」や「学修成果の修得」を挙げています。

今年大学を卒業した学生は 40 代半ばを迎えます。卒業生がこれからの時代に「真に豊かな人生」を送るためには、幅広い教養や専門分野の知識に加え、「主体性・タフネス・多様性への理解」や学び続ける力、論理的思考力、コミュニケーション能力、チームワーク力等の汎用的能力、倫理に基づく価値観や人間性、自律的に行動する資質が求められます。学生は、社会で活躍するための知識・能力・資質を卒業までにしっかりと身に付け（学修成果の修得）、大学は 3 つのポリシー（ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシー）を厳格に運用することにより、それを保証する仕組みを確立させ（学生の質の保証）、その信頼性の高さによって学生は自ら望む進路・就職を実現させます（質の高い就労）。

長期戦略には、これら以外に「国際化の推進」「国連等との連携強化」「正課外教育の推進」など合計 30 以上のテーマがあり、目標達成のために多角的・総合的に取り組みます。さらに、この将来構想に基づき、長期戦略を具現化させる中期総合経営計画を推進しています。

(2) 文部科学省 大学のグローバル化各事業に採択

本学はその使命として「“Mastery for Service” を体現する世界市民の育成」を掲げています。知識の修得にとどまらず、国際性と創造力、課題発見・解決能力、実行力を身につけ、それぞれの立場で地域社会・国際社会に貢献することができる人を育てています。その永年の実績とグローバル社会に向けたチャレンジングな取組みが評価され、多くの文部科学省補助事業に採択されており、学生がグローバルに活躍できる力を身につけるための様々な成長の機会を提供しています。

① スーパーグローバル大学創成支援（SGU）事業

2014 年度から 2023 年度までの 10 年間、文部科学省「スーパーグローバル大学等事業 スーパーグローバル大学創成支援」（タイプ B：グローバル化牽引型）に本学の構想「国際性豊かな学術交流の母港『グローバル・アカデミック・ポート』の構築」が採択されています。「スーパーグローバル大学創成支援」は高等教育の国際競争力の向上を目的に、世界レベルの教育研究を行うトップ大学（タイプ A）や国際化を牽引するグローバル大学（タイプ B）を重点支援する国の施策です。タイプ A/タイプ B 合わせて 37 校が採択されています（申請大学数は 104 校）。タイプ B 採択校 24 校のうち、関西の私立大学では本学含め 2 校のみとなっています。本学の構想概要・特色は次のとおりです。

○教育 OS の刷新「ダブルチャレンジ制度」

全学生が所属学部の学びに加えて異なるものとの出会いの場「アウェイチャレンジ」に挑戦することで、「主体性」「タフネス」「多様性への理解」を深める独自の教育 OS（Operating System）を導入します。アウェイチャレンジには「インターナショナル」（留学等）、「ハンズオン・ラーニング」（社会での実践型学習）、「副専攻」（他学部での体系的な学び）の 3 プログラムを設けます。

○協定に基づく海外派遣学生数日本一

海外大学との協定に基づく年間の海外派遣数を 2013 年度当時の約 900 人から 2023 年度までには 2,500 人に伸ばし、日本一となることを目指すものですが、2018 年度実績で約 1,800 人を超える学生を海外協定大学に派遣し、日本学生支援機構が発表した「協定等に基づく日本人学生派遣数の多い大学」の全国 1 位となりました。2019 年度は新型コロナウイルス感染症の世界的拡大による影響を受け、派遣者数は前年度並みとなっています。

○ガバナンス改革による総合的マネジメント実現

学長が副理事長を兼務し、マネジメントにおいて総合的なリーダーシップを発揮できる体制を確立、総合私立大学の先駆となる「関学モデル」を提示します。

○国際通用性のある質保証システム構築

アメリカの全米大学協会や新たなプロジェクトへのオブザーバー参加などを通じて、先進モデルを本学の質保証システムの構築に援用します。

○国連・国際機関等へのゲートウェイ創設

2017年度より、複数の大学院研究科（修士）が共同で副専攻「国連・外交コース」を設置しています。また、学部レベルでも、2017年度入学生から副専攻「国連・外交プログラム」を提供しています。国際機関、国際NGO職員や外交官を育成するプログラムを高大接続から学部、大学院、そしてその修了後まで体系的に整備した、日本でも唯一と言えるスキームです。

本学はこれらの取組みにより「“Mastery for Service”を体現する世界市民の育成」というミッションに向かって、日本における“Top Global University”を目指します。

② 「世界展開力強化事業」「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」

SGU以外にも、本学のミッションである「“Mastery for Service”を体現する世界市民の育成」を大きく飛躍させる取組みとして、2011年度、2012年度と相次いで文部科学省の国際化拠点整備事業に採択された実績があります。

2011年度に採択された「世界展開力強化事業」では、カナダと本学の永年にわたる強い結びつきを「日加大学協働・世界市民リーダーズ育成プログラム“Cross-Cultural College”」という新たなかたちで展開しました。現在も、カナダの3大学の学生と本学の学生が、お互いの大学を往来して学びを深めています。

2012年度は「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」（全学推進型）に、全国11大学のうちの1校として採択されました。この事業は大学全体のグローバル化を推進し、多くの学生を海外に派遣する取組です。本学では交換留学等多岐にわたる留学プログラムのほか、国際協力プログラム（国連ユースボランティア、国際社会貢献活動、海外フィールドワーク）を大幅に拡充しました。

（3）認証評価で「適合」の評価結果

本学は2013年度に大学基準協会で2回目の認証評価を受け、「適合」の評価結果を得ました。認定期間は2014年4月1日から2021年3月31日までの7年間です。認証評価は7年に一度、大学としての適切な教育研究水準を維持し、質の保証と向上に取り組んでいるか、そのための組織・体制が整っているか等について認証評価機関による評価を受ける制度です。2020年は、本学3回目の認証評価受審年度となり、その準備を行っています。

2. 教育・授業に関すること

（1）建学の精神ーキリスト教主義教育とチャペルアワー

本学は2014年に創立125周年を迎えました。私立大学はそれぞれ建学の精神を持って創立されていますが、本学の建学の精神・教育理念はキリスト教主義に基づく人間形成です。それを簡潔に示しているのがスクールモットー「Mastery for Service」（奉仕のための練達）です。これは第4代院長のベーツ博士が学生に語った言葉であり、自己修養（練達）と献身（奉仕）を合わせ持つ生き方に、真の人間の生き方を示したものです。本学では、キリスト教を通じた人間理解を学びのベースに置き、キリスト教の精神に触れることで、人間の本質を理解し、その存在の意味を知り、思考や価値観の指針を形づくることをめざし、すべての学部でキリスト教科目を必修としています。また、1時限目と2時限目の間にチャペルアワーを設け、神の前に身を置くことで自らを見つめ直すとともに、未来に向けてどう生きるべきかを考える時間としています。

（2）授業

①大学・大学院祝日授業実施

ハッピーマンデー法による祝日や祝日の振替休日により各曜日の授業回数を確保することが極めて困難となるなかで、2020年度は下記の祝休日に授業、定期試験・中間試験（大学院は補講または試験）を実施します。

祝休日：4月29日（昭和の日）※、5月6日（振替休日）※、7月23日（海の日）、7月24日（体育

の日)、9月28日(創立記念日)、11月3日(文化の日)、11月23日(勤労感謝の日)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休講。

なお、2021年度以降の授業スケジュール(授業時間含む)について、近年、法令の改正によって、知識伝達型の授業から、教員と学生が双方向に意思疎通を図る授業への改善を行うなど、学生の主体的な学びを促進すべく弾力的な学年暦の設定が可能になり、本学においても、教学改革の一環として、単位制度の実質化に対応しつつグローバルな課題と社会的要請に応えるための授業のあり方や学年暦について、全学的に慎重に協議を重ね、2021年度から、大学・大学院(司法研究科を除く)における学年暦・授業時間割を抜本的に見直す予定です。主な変更と目的は以下の通りとなります。

- ① 1時限あたりの授業時間を90分から100分に変更し、授業時間割を刷新。
100分授業の導入は、単に授業時間数の確保が目的ではなく、多様な授業方法(例えば反転授業やアクティブラーニング、授業の前後半を活用した授業展開など)への転換を促進するとともに、学生の主体的な学修を促します。
- ② 災害等による休講に対する補講日を5日間確保。
台風や公共交通機関の遅延等による休講に対して、各曜日分補講日を設けることにより、これまで以上に単位制度に沿った授業時間数を確保します。
- ③ 定期試験期間を7日間に短縮。
休業期間におけるインターンシップや海外留学等の学外活動への参加機会を拡充するとともに、授業科目に対する多様な成績評価方法への転換を促進します。
- ④ 本学の海外留学プログラムと定期試験(追試験を含む)との重複時の課題を解消。
これまで重複時は、留学か試験のどちらかを選択しなければなりませんでした。代替の評価方法で成績評価することにより、全学的に海外留学プログラムへの参加を推進します。
- ⑤ 祝休日における授業等の実施を抑制。
祝休日における授業等の実施を減少させ、授業外での学修機会、課外活動やインターンシップ等の活動機会が広がるよう、ゆとりある学年暦とします。

②複数分野専攻制(Multidisciplinary Studies : MS)

複数分野専攻制(以下MS)は、通常他学部履修とは異なり、自学部の学習に軸足を置きながらも、他学部のカリキュラムをまとまった形で学ぶことができます。学部の枠を超えた領域を学ぶことによって、幅広い知見と深い専門性を備えた学生を輩出するため、各学部・センターがプログラムを提供しています。プログラムによっては研究演習を履修し、論文作成の指導を受けて評価を得ることができるものもあります。

MSにおいて提供されるプログラムには副専攻プログラムと特別プログラムの2種類があります。各プログラムとも一定のまとまりをもった科目群から2～3年間でおおむね40単位を修得することによって修了となります。プログラム修了者には、卒業時に、学位記とあわせて独自の修了証書を授与されます。

③マルチプル・ディグリー(MD)制度

上記②の複数分野専攻制と早期卒業制度・4年次編入を組み合わせ、最短4年間で、2つの学部を卒業し2つの学位(学士)を取得できるものとして、日本で初めて本学が導入した制度です。2020年3月には6名の学生が卒業しました。本年度は4名がこの制度を利用して編入学し2つ目の学位取得を目指しています。

③成績評価とGPA(Grade Point Average)制度

学生の多面的な能力を評価するために、本学では定期試験のみの成績評価ではなく、授業中の討論、発表、レポート等を含めた、より総合的な成績評価制度を行うこととしています。80点以上の「優」の上に90点以上の「秀」を設け、「秀(90点以上)」「優(80点以上)」「良(70点以上)」「可(60点以上)」「不可(60点未満)」の5段階とし、きめ細かな成績評価を行います。また、各授業科目の授業目的、到達目標、授業計画、成績評価方法・基準などを記載したシラバスを本学ホームページに公開しています。

加えて、2005年度よりGPA(Grade Point Average)制度を導入しています。この制度は、学生が履修した各科目の成績評価に対して一定のGP(Grade Point)を与え、その合計の加重平均をGPAとして提示する成績評価方法です。この制度を通じて学生が自己の履修を管理し、学習成果がどのレベルに位置するかを把握し、学習意欲を高めることが期待されます。GPAに基づく成績優秀者については、それを学期ごとに学部にて掲示し、顕彰します。さらに卒業時には各学部の4年間のGPA

上位 5%の者に対して学長より表彰状を授与しています。

④ セメスター制と単位制

1 年を春学期と秋学期に分けるセメスター制を導入し、4 年間 8 学期でカリキュラムを編成しています。一つの科目を半年間で集中的に学ぶことにより、学習効果が高まるとともに、留学等の計画が立てやすいという利点があります。一部学部ではさらに集中的に学ぶクォーター制の授業も開講しています。また、卒業（学位取得）のための必要単位数を定めており、一つの科目を所定の期間履修し、試験やレポートなどの評価で総合的に合格すれば単位を修得できます。定期試験は、春学期は 7 月、秋学期は 1 月に行われます。

⑥ 学修行動と授業に関する調査

F D：ファカルティ・ディベロップメント（授業や学習環境の改善への大学全体での取り組み）として、2005 年度より学生による「授業に関する調査」を実施しています。全学統一の調査項目で全科目を対象に実施しているもので、2012 年度からは 3 年ごとに実施していた調査を毎年実施しています。2017 年度からは、受講生の学修行動・成果の振り返りのための質問を加えた学生番号記名式の調査となり、学生は自身の回答の一部を LMS などから確認することができるようになりました。この調査結果に基づき、授業担当者はもちろん、各学部、大学全体として授業内容の充実や教育の改善に取り組んでいます。

⑦ 「学修行動と授業に関する調査」の公表と教員の F D 活動

「学修行動と授業に関する調査」の結果については、各授業担当者にフィードバックし、それに対する授業内容の充実や改善への具体的な方策および進捗状況についての報告をとりまとめて、学内ネット上で公開しています。また調査結果をマクロ分析した報告書を作成し、同じく学内で公表の上、組織的な改善に努めています。

そのほか、各学部・センター等での F D 研究会開催や、高等教育推進センターが主催で講演会・ワークショップなどを開催する等、全学的に F D 活動を推進しています。

⑧ 学生調査・卒業生調査

在学生や卒業生を対象とした各種調査を実施しています。在学生を対象とした調査では学習経験や入学後の能力変化、将来に対する意識などを、卒業生を対象とした調査では在学時の学生生活や現在の就業状況、現在の世勝への満足度などについて尋ねており、これらの調査結果をもとに、大学全体の改革に結びつけられるよう取り組んでおります。

⑨ 教授者—学習者支援システム（LMS）の活用

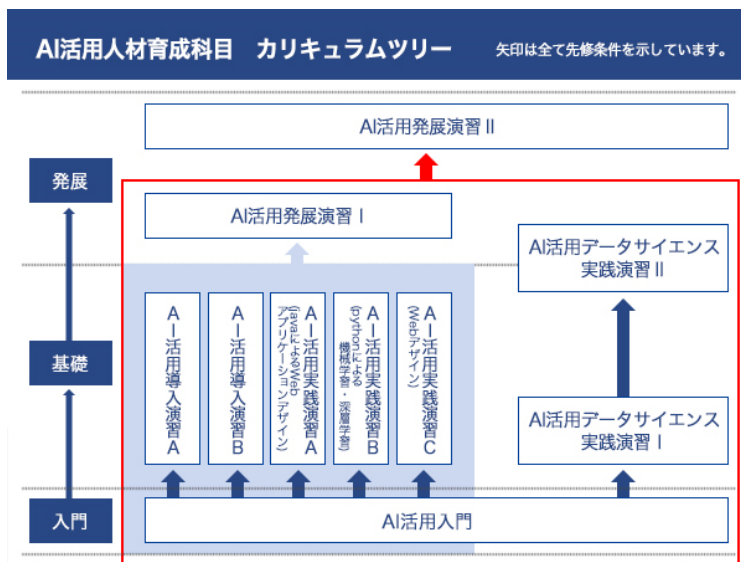
米国 Black board 社の LMS（Learning Management System）を導入しています。このシステムは、本学が目指す I C T キャンパスのさまざまなプロジェクトの 1 つとして導入したもので、教授者—学習者を結ぶコミュニケーション、授業支援ツールとして、資料提示やレポート・課題・テスト等を円滑に行うことができるものです。これらの取り組みもすべて教員と学生の距離を縮め、円滑なコミュニケーションと、教育の充実を目的としたものです。

（3）特色ある教育

① A I 活用人材育成

2019 年度より、本学と日本 IBM が共同開発した「A I 活用人材育成プログラム」を開講しています。このプログラムは、今後の社会で益々必要とされる A I 活用人材（A I やデータサイエンス関連の知識を持ち、それらを活用して現実の諸問題を解決できる能力を有する人）を育成するものです。

基礎から実践、応用まで段階的に学べるように設計しており、文系・理系関係なく、A I やプログラミング等に関する特別な知識やスキルがなくても履修できます。10 科目（20 単位）で構成され、座学だけでなく多くの演習や P B L (Project Based Learning) も組み合わせた、ビジネスの現場でも役立つ実践的なプログラムとなっており、A I の活用スキルにフォーカスした本プログラムは世界の先駆的なものとして注目されています。



②ハンズオン・ラーニング

ハンズオン・ラーニングセンターは、「キャンパスを出て、社会に学ぶ」をキーコンセプトに、実践的・体験的な教育プログラムを専門的に開発し、全学部・全学年を対象に提供しています。

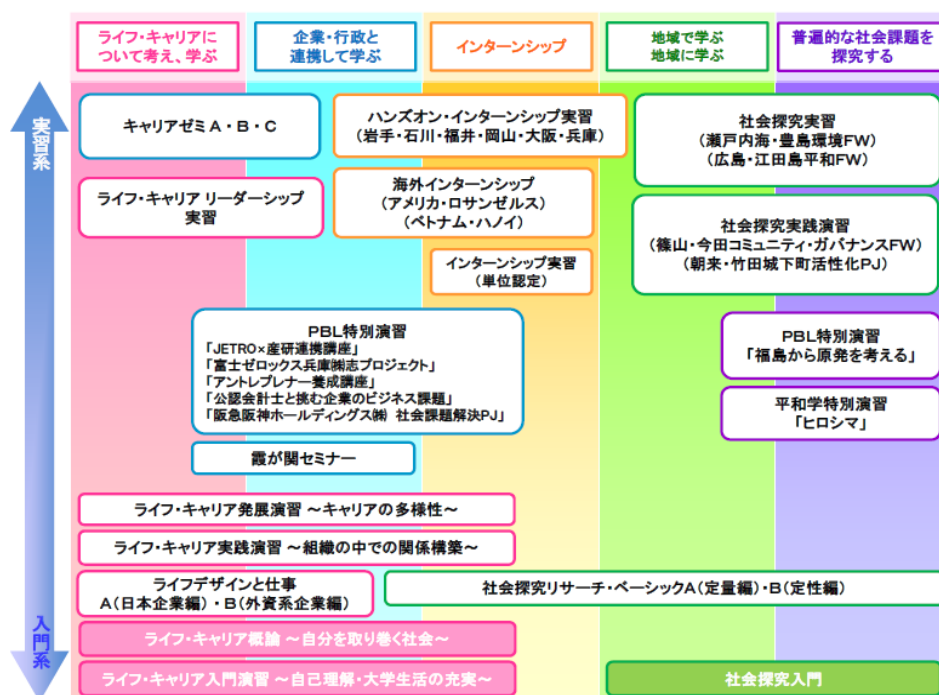
実践的な取り組みを通して、ハンズオン・ラーニングセンターが「知的基礎体力」と位置付ける「社会の課題に自ら向き合う学修姿勢・思考力・行動力」を習得することにより、学部での専門的な学びや将来、社会に出てからも学び続ける力に繋げていくことを目指しています。

企業、行政、地域と連携した実践的な科目の中で、学生は主に以下[1]～[3]のような内容に主体的に取り組めます。

- [1]課題解決・企画提案型のプロジェクト学修
- [2]自己探究・プロジェクト型のインターンシップ
- [3]インタビューを中心としたフィールドワーク

ハンズオン・ラーニングセンターでは、実践の場に出る前の準備に位置付けられる基礎的な科目から、インターンシップやフィールドワークなどの実践的な科目まで体系的に提供しています。

【ハンズオン・ラーニングセンター提供科目】



③ライティング教育

2020年4月からライティングセンターを設置し、「ライティング科目の運営」と「対面指導」と

いう2つのアプローチから、学生の「書く力」を養成し、論理的思考力や表現能力を身に付けた「自立した書き手」を育成します。

「ライティング科目」については、2020年4月より「スタディスキルセミナー（レポート執筆の基礎）」という科目を新たに開講します。この授業では、レポートを執筆する際の型やルール・コツを理解することに加えて、学生が作成したレポートを担当教員が何度も添削する「個人指導」のスタイルをベースに運営します。レポートを執筆するための基礎的な力（ライティングスキル）の習得を主の目的とし、合わせて論理的に文章を作成する過程で、論理的思考力の習得も目指します。

また、2021年4月からスタートする「対面指導」については、授業の課題レポートや卒業論文を書くことで悩んだり、困ったりしたときに、センター専属の教員や教育指導員（本学大学院生）から1対1でアドバイスを受けることができる仕組みです。相談は1回45分で予約制。どうすれば思いや考えが的確に伝わる、わかりやすい文章になるか。「書き手」と「読み手」が一緒に考え、話し合いながら改善策を探ります。下書きや、まだ1字も書けていない段階でも歓迎します。

④少人数教育とオフィス・アワー

少人数教育を重視し、演習科目（ゼミナール）を中心に密度の濃い学習指導を行っています。また、教員と学生のコミュニケーションを深めるために「オフィス・アワー」を設けています。各教員が週に一度時間を定め、学生はその時間を利用して個人研究室を訪問し、授業での疑問点や関心のある問題の取り組み方など勉学に関すること、学生生活上のさまざまな相談事などについて、直接、教員から指導を受けたり、語り合うことができます。

（4）国際教育

①言語教育

「英語の関学」の伝統を受け継ぎ、国際化時代をリードする人材の育成をめざして言語教育プログラムを展開しています。習熟度別クラス編成を徹底するため、入学予定者を対象として、入学前の2月～3月にプレースメントテスト（GTEC）の自宅受験を実施しています。また、学生の学習到達度を統一的に測るため、1年次と2年次にアチーブメントテスト（TOEIC-IP）を課しています（総合政策学部はTOEFL-ITPを実施）。この他、海外留学プログラムへの学生参加を促進するため、留学を目指す学生を主な対象として、無料でTOEFL-ITPを受験できる機会を提供しています。

ドイツ語、フランス語についてもインテンシブ・プログラムを実施するとともに、夏季には、フランシュ・コンテ大学でのフランス語研修、プレーメン大学でのドイツ語研修を実施しています。さらに英語以外の選択言語としてフランス語、ドイツ語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、アラビア語、中国語、朝鮮語、インドネシア語、日本手話を開講しています。

②留学プログラム

本学は、世界55カ国・地域、275の海外の大学・コンソーシアム等と学術交流協定、学生交換協定あるいは学部間協定を締結し、また、さまざまな留学、国際教育プログラムを展開し、学生の国際人としての第一歩を力強くサポートしています。留学制度としては、本学と学生交換協定のある海外の大学に留学するものとして、①「交換留学」（本学に在籍しながら協定大学へ1学期間または2学期間留学できる制度）、②「長期留学（学部科目履修型）」（本学の協定大学で1学期間または2学期間留学して英語を集中的に学習し、学部授業を履修できる制度）および「認定留学」（本学を休学することなく、協定大学を含む外国の大学に留学できる制度）、③語学留学に焦点をあてた「英語中期留学」、「フランス語中期留学」、「スペイン語中期留学」、ビジネス英語に加えて現地企業でインターンシップを行う「中期海外インターンシップ（オーストラリア）」、④その他のプログラムとして、夏季・春季休暇等を利用した「外国語研修」、「インドネシア交流セミナー」「国連セミナー」「短期海外インターンシップ（アメリカ、ベトナム）」などを設けています。さらに、グローバル社会の発展・成長に寄与できる世界市民リーダーズを育成することを目的としたバーチャルカレッジ、“Cross-Cultural College”をカナダの協定3大学（マウント・アリソン大学、クイーンズ大学、トロント大学）と協働で設立・運営し、高い英語運用能力と多国籍な場面で活躍できる能力を養う実践的なプログラムを提供しています。また、2019年度はゴールデンウィークに新入生対象「海外異文化体験セミナー」を実施し、39名の新入生が参加しました。この他にも各学部で学部のカリキュラムや専門分野に沿った留学プログラムを提供しています。

⑤ 国際協力プログラム（国連ユースボランティア・国際社会貢献活動・海外フィールドワーク）

本学は、アジアの大学として初めて国連ボランティア計画（UNV）と協定を締結し、2004年度から開発途上国への「国連学生ボランティア」派遣を開始し、これまでに100名以上の学生を開発途上国に送り出してきました。参加学生はUNVのコーディネートにより、開発途上国の国連諸機関に約5カ月間派遣されます。2013年度に「国連ユースボランティア」としてプログラムが改編されるとともに、現在、国内8大学（基幹校：関西学院大、連携校：大阪大・国際教養大・筑波大・東洋大・明治大・明治学院大・立教大）が参加してプログラムを実施しています。また同年、本学内に『国連ユースボランティア』派遣日本訓練センターを設置し、派遣前の研修を実施しています。この国連ユースボランティアに加え、2013年度からは開発途上国でのボランティアプログラムを更に拡大し、「国際社会貢献活動」として国際協力機構（JICA）の青年海外協力隊への参加をはじめ、赤十字国際委員会（ICRC）、NGO、教育機関等に学生を派遣し、国際協力の現場で生の活動を体験できる機会を提供しています。2019年度は「国連ユースボランティア」「国際社会貢献活動」合わせて31名を派遣しました。両プログラムとも、所定の課程を修めた学生には、最大16単位が認定されます。また、これらのボランティアプログラムへの参加を検討している学生に向けた短期プログラム「海外フィールドワーク」を開発途上国の現場における導入的学びとして実施しています。

（5）大学図書館

地上3階、地下2層からなる西宮上ヶ原キャンパス大学図書館は、収容能力が約150万冊、閲覧座席は1,782席という規模を誇ります。利用者が館内のほとんどの図書や雑誌を自由に手に取って利用することができる開架制を採用しているのが大きな特徴です。DVD・CDなどの視聴覚資料も充実しており、館内の利用コーナーで視聴することができます。また、館内に設置されたパソコン（デスクトップ117台、貸出用ノート40台）を使って、国内外の様々なデータベースや電子ジャーナルなどの電子資料も利用することができます。大学図書館は西宮聖和キャンパスと神戸三田キャンパスに分室があり、これらの図書館の図書・資料を利用することもできます。西宮聖和キャンパスの図書館は聖和短期大学図書館を兼ねており、約20万冊の図書や雑誌を備え、教育関係、特に幼児、初等教育関係の資料が充実しています。神戸三田キャンパスの図書館では、社会科学分野と自然科学分野を中心に約30万冊の図書や多数の雑誌、視聴覚資料等を利用することができます。また、114台のパソコンと利用相談カウンターを備えたメディア・フォーラムを併設しています。これら3キャンパスの図書館は相互に資料を取り寄せて利用できるなど大学図書館として一体化した運用がなされています。

3. 学生生活に関すること

（1）学生生活支援

①奨学金制度

学費の負担を少しでも軽減し勉学に専念できるよう「日本学生支援機構奨学金」の他、相互扶助の精神にもとづき本学独自の支給奨学金「関西学院大学就学奨励・経済支援奨学金」等の奨学金制度を設けています。例年、日本学生支援機構奨学金の新規希望者対象の出願説明会を3月に実施し、4月に出願受付を行っています。一方、関西学院大学就学奨励・経済支援奨学金については、9月に出願説明会を実施し10月に出願を受け付けています。

なお、家計急変等には随時相談に応じています。家計急変者を対象とした「関西学院大学特別支給奨学金」については、「後援会奨学金」と同時に5月に募集を行います。受験前に出願し、採用決定も受験前に通知される「ランバス支給奨学金」「高大接続奨励支給奨学金」は所定の継続条件を満たすことによって4年間継続受給が可能な奨学金となっています。

②総合支援センター

総合支援センターには、「キャンパス自立支援室」と「学生支援相談室」の二つの専門部局があります。

「キャンパス自立支援室」は何らかの障がいや病気、特性のある学生の修学支援や就労支援を全学的に行うための総合窓口です。「学生支援相談室」は学生生活上でのさまざまな悩みや問題について、個別に相談ができます。「キャンパス自立支援室」にはコーディネーター、「学生支援相談室」にはカウンセラーと、それぞれ専門的な知見を有するスタッフが配置されています。学部のある各キャンパスに「キャンパス自立支援室」と「学生支援相談室」（神戸三田キャンパスと西宮聖和キャンパスは分室）を設置しています。

＜キャンパス自立支援室＞

障がいのある学生が、他の学生と同様に学びながら充実したキャンパスライフを過ごせるように、関西学院大学「障がい学生支援に関する基本方針」・「障がい学生支援実施基準（ガイドライン）」に

基づき全学的な修学支援を行なっています。修学支援は、ノートテイク、映像の字幕付け、点訳、対面朗読等の手段により行なっており、これらの支援を募集・養成した学生（学生サポートスタッフ）が担っています。また、困り感を持つ学生のための進路相談・就労支援を行っています。なお、支援内容は、障がいのある学生一人ひとりのニーズに基づき、個別に支援方針を決定しています。

＜学生支援相談室＞

公認心理師、臨床心理士等の資格を有するカウンセラーが「倫理綱領」・「守秘義務に関する覚書」に基づき、①心理領域相談（対人関係、心身の不調、家庭問題や自分の性格等についての悩み等）②修学領域相談（単位取得、転学部・転学科、休学・退学、進路選択等）③生活領域相談（課外活動、学生生活に関する悩みや事故・事件など各種トラブル等）に対応しています。通常は対面での相談ですが、対面での相談が難しい状況下では、電話での相談も実施しております。また、学生からの希望に基づき、学内外の諸機関等と連携してサポートをする事もあります。その他にも、本学卒業生の弁護士による「なんでも法律相談」を年間12回実施し、法律に関するトラブル等の相談にも対応しています。

（２）課外活動

課外活動は学生の主体的な活動であり、その活動は学生の人格形成に大きな役割を果たしています。現在、本学には約200の課外活動団体があります。「体育会」は42部・約2,700名により運営されています。体育会の学生については、2019年度入学生からAcademic Eligibility for KG athletes（関西学院大学体育会員に関する対外試合出場のための資格制度）が導入され、課外活動と学業の両立にも果敢に挑戦しています。また、地域のこども園を訪問するなど、様々な社会貢献活動を実施しております。「文化総部」は文化系クラブ35部・約1,400名から構成されています。「大学祭実行委員会」が主催する大学祭は3キャンパス合計で約5万人が訪れる大規模なイベントで、多くの学生たちの活動発表の場となっています。その他、4つの総部や約80以上におよぶスポーツ系・文化系・学術系の同好会である登録団体が日々活発に活動しています。

（３）通学に関すること

①自動車・バイク通学について

西宮上ヶ原キャンパスでは、交通事故の原因や近隣住民の迷惑になるため、自動車による通学（身体障がい学生の利用などを除いて）および総排気量50cc超のバイク通学を全面禁止、総排気量50cc以下のバイクによる通学は自粛としています。なお、神戸三田キャンパスにおいては、交通の便で西宮上ヶ原キャンパスに比べると十分とは言えない面もあり、やむを得ず自動車通学を必要とする学生には、申請・許可制により自動車通学を認めています。ただし駐車場は有料です。また、西宮聖和キャンパスにおいては関西学院幼稚園が併設されていることもあり、自動車・バイク通学を一切禁止しています。なお、これらの取り決めを守らず、大学の数度にわたる指導にも関わらず改善が見られない学生に関しては停学処分を含めて厳しく指導にあたります。

②自転車通学について

通学にあたり、気軽な手段である自転車を利用する学生も多くいますが、「車両」であることを認識せず、通行区分を違反する者、イヤフォンを装着して乗車する者もあり、加害者となり得ることを考慮しないケースがあります。また、キャンパス内の駐輪場での自転車盗難も多発しており、警備も行っていますが、駐輪時には必ず2つの鍵で施錠するよう注意喚起しています。

③マナー向上啓発活動

近年、キャンパス周辺での学生のマナーの低下が近隣住民等より指摘されています。周辺住宅街における迷惑駐車をはじめ、一般歩道での自転車・バイク駐輪、通学路における信号無視、横に広がって道を歩き他の通行人や車両の迷惑となる、ゴミのポイ捨て、人混みでの歩行喫煙、サークルの飲み会で深夜まで騒ぎ近所迷惑となる等が主に苦情として寄せられています。本学では、新入生オリエンテーション等における啓発活動のほか、学生団体への注意説明会、一人暮らしを始める新入生対象に一人暮らし説明会の実施を計画しています。また、学内では指定場所以外は禁煙となっていますが、指定場所以外での喫煙も散見され、適宜、教職員で注意をしています。

4. 就職・キャリア支援

本学では「学生の長所を引き出し強みを活かす」という考え方とともに、次の「進路を考えるにあたっての5つのステップ」を重視して就職支援・キャリア支援を展開しています。

◆進路を考えるにあたっての5つのステップ

- 1 人生観・職業観を持ち、自分の人生における働く意味を明確にする
- 2 自分の長所（短所）を知り、強みを活かす（自己分析）
- 3 業界・業種を調べ、選択する
- 4 企業を調べ、選択する
- 5 企業風土や働き方が、自分に合うか確認する

中でも重要視しているのが1と2のステップです。1と2が自分なりにしっかりと整理できていれば、3以降のステップはスムーズに進めることができます。なぜなら、業界・職種や企業を選択し、企業風土があうかどうかを判断する基準は「自分の人生観・職業観」であり、「自己分析」がその確かな進路選択に繋がるからです。これらのステップを通じて、最終的に「自分がなりたい姿（将来像）」をしっかりと描き、自らの生き方、人生の軸（価値観）を明確にすることで職業選択も一本筋の通ったものになります。

（1）就職状況

①大卒求人動向

2020年3月卒業者対象の大卒求人倍率は1.83倍で、前年の1.88倍から0.05ポイント下落したものの、高水準でした。しかし、規模別で見ると、従業員1,000人以上の大企業の求人は0.70倍、1,000人未満の企業は3.97倍と、大企業への就職は厳しい状況が続いています。【リクルートワークス研究所「大卒求人倍率調査」より】

②就職活動全般

2020年3月卒業者の就職活動は、企業の「広報活動」開始が3月、「採用選考」開始が6月でした。このスケジュールは2021年3月卒業者（現・学部4年生）、2022年3月卒業者（現・学部3年生）の採用活動においても変更なしと発表されています。

※広報活動：採用情報提供や就職活動生の個人情報取得に向けた活動。

採用選考：可否を伴う面接や試験等。

近年の傾向として、就職活動の情報化が挙げられます。Webを活用した採用活動が活発になる中、キャリアセンターでは様々な施策を実施しました。オンキャンパスのガイダンスやセミナーを実施しつつ、オンラインで動画コンテンツを配信する「K.G. キャリアチャンネル」を開設しました。また、キャリアに関する個人面談については、対面式に加えWeb面談も導入しています。今後も、変化に応じて最適な支援を実現していきます。

（2）本学生の就職状況（2020年3月卒業者）

就職率（※1）は99.7%（男子99.4% 女子99.9%）で昨年を上回り、就職・進路決定率（※2）は92.5%（男子91.2% 女子93.7%）で昨年と同じ数値になりました。就職先への満足度（※3）は95.9%（男子95.7% 女子96.1%）と高く、学生自身が納得のいく進路決定を実現できている状況といえます。

（※1） 就職率＝就職者（自営除く）／就職希望者数

（※2） 就職・進路決定率＝（就職者＋自営）／（卒業者－進学者）

（※3） 満足度＝進路決定時学生アンケートにおける「大変満足」「大体満足」の合計人数／回答者数

（3）サポート体制

①就職支援（3・4年生）

a) 文系3年生対象サポート

学生が自ら考えて動くための情報提供機会と位置づけて「キャリアガイダンス」を実施しました。開催趣旨は次のとおりです。

第1回…4月に実施。卒業後の進路を考えるための準備、就職活動の一般的な流れや採用プロセス、夏のインターンシップを見据えた事前準備（インターンシップ情報の収集・自己分析・エントリーシート対策・筆記試験対策）について知り、関学生専用の「就職活動ハンドブック」をもとに活動の進め方を理解する。

第2回…5月に実施。「自己分析と業界・企業研究」をテーマに自己分析した内容のエントリーシートへの落とし込み方や業界研究の具体的な進め方を知る。

アドバンスト…10月に実施。11月にリリースされたK.G.キャリアチャンネルの告知及び、秋以降の就職活動の進め方を理解する。

就職活動直前…直前に迫った就職活動の本格的なスタートに備え、就職活動を効率よく進めるためのポイントを知る。

また、4月にインターンシップの情報収集とポイントを早期に知することを目的として、「インターンシップ説明会」を実施。9月には、短期インターンシップに参加した学生を対象に、インターンシップの経験を、今後の就職活動の準備に繋げる方法を伝えるセミナーを実施しました。

b) 理工系3年生対象サポート

就職活動の準備として、以下のとおり「キャリアガイダンス」を実施しました。

第1回…4月「進路選択とインターンシップ応募に向けての準備・対策」編

第2回…5月「自己分析と業界・企業研究」編

就職活動直前…1月「これだけは必ず押さえておきたい理工系学生の就職活動のポイント」編

また、理工系特有の就職活動の方法として「学校推薦に関する説明会」を11月に実施しました。

c) 文系・理工系共通サポート

・個人面談を中心としたきめ細やかなサポート体制

個人面談では経験豊かなキャリアセンタースタッフが学生と1対1で向き合い、学生それぞれの持ち味を活かした履歴書の書き方や面接対策などをアドバイスしています。2019年度は延べ20,308人の学生が個人面談やカウンターで様々な相談を行いました。

・キャリアガイダンスと連動して各種セミナーを実施

筆記試験対策セミナー、業界動向について理解を深めるためのセミナー、面接選考に備えてマナーやグループディスカッション、集団面接を体験する機会、女子学生対象セミナー、公務員志望者向けの公務研究セミナーなどを提供しています。また、卒業生の協力を得、社会人として働く先輩の生の声をセミナーを通じて聞くことで自分の進路を明確に描いたり、様々な観点から社会を知る機会を設けています。

・企業採用担当者によるセミナーを実施

企業採用担当者が来学して実施する学内企業説明会は、3年生の3月以降に順次開催しました。

・就職活動を終えた先輩からの親身なアドバイス

毎年、就職活動を終えた4年生学生であるSR（Student Reporters）が、3年生の就職活動を力強くサポートしています。直近の就職活動経験者であり、年齢の近い先輩であるSRは3年生にとって身近で頼もしい存在であり、本学の特徴的なサポートのひとつと言えます。

・有益な情報満載の「KGキャリアナビ」

本学の学生のみが利用できる「KGキャリアナビ」では、企業から大学に寄せられる求人・インターンシップ情報、企業情報、先輩の就職活動体験記などの各種情報をスマートフォンやパソコンで閲覧することができます。また、3年生の6月以降はこのシステムを通じて、個人面談予約や面接トレーニングの予約をすることができます。

・KGキャリアChatbot(チャットボット)で24時間・365日 学生の質問に対応

最新のAI技術を活用したチャットボット導入により、進路や就職に関する学生の質問に時間や場所を問わず対応できる体制を整えています。就職活動時や海外留学中など、キャリアセンターに来室できない時でもスマートフォンやパソコンから質問し回答を得ることができます。1万5,000件を超える過去の学生相談事例をもとに、本学学生の状況に合わせたオリジナル質問と回答を独自作成しており、外部のインターネットサイトでは得られない関学生向けの確かな情報を入手することができます。

・SNSを通じた情報の発信

キャリアセンタ公式Twitter、instagramアカウントを学年別に開設し、キャリアセンタ主催イベントや各種プログラムの案内、就職活動中の学生に向けた激励メッセージなど、タイムリ

一な情報発信を行っています。

・就職活動の拠点「大阪梅田キャンパス」「東京丸の内キャンパス」

就職活動拠点となる大阪梅田キャンパスでは年間通じてキャリアセンターのスタッフが常駐し、個人面談をはじめ、学内企業説明会の開催などを通じて学生の就職活動をサポートしています。また、首都圏での就職活動サポートの場として、東京駅隣接の東京丸の内キャンパスに就職活動中の学生が利用可能なスペースを設けており、就職活動繁忙期には夜行バス等の利用者に対応して早朝7時30分から開室しています。また、西宮上ヶ原キャンパス等のキャリアセンターとWebシステムを介して接続し、個人面談を受けることもできます。

②キャリア支援（1・2年次） ～低年次から人生観・職業観を培う～

1年次から「人生観、職業観を持ち、自分の人生における働く意味を明確にする」ことを重視し、以下のキャリア支援プログラムを実施しています。4年間にわたるプログラムの基本理念は「長所を知り強みを活かすこと」であり、1・2年次では「自らの気づき」を重視しています。また、新入生向けに、4年間にわたり自らの成長の軌跡を記すことができる、本学オリジナルWEB冊子「K. G. S T A G E」を提供し、自らの持ち味や能力を高める大学生活の過ごし方を紹介しています。

低年次向けキャリア支援プログラム

- ・新入生オリエンテーション：学部別に、自らの持ち味や能力を高める大学生活の過ごし方を紹介
- ・インターンシップ説明会：インターンシップの情報収集の方法や参加のポイントを解説
- ・K G 枠インターンシップ：本学学生を対象に企業・団体から特別枠の提供を受けて実施（※3年生も対象）
- ・一日公務員体験：自治体で公務員の業務を体験する
- ・2年生向けキャリアセミナー：早期から自己分析の重要性を知り、就業意識の醸成を図る

5. 生涯学習に関すること

生涯学習を担うという大学の使命のもと、社会人を対象として大学の教育・研究成果を授業、講座、講演会といったさまざまな形で提供し、地域や社会に貢献しています。また、在学生、卒業生を主な対象とした各種資格取得や就職支援のプログラムも提供しています。

（1）大学の授業を受講できるプログラム

①科目等履修

大学および大学院で開講している授業科目を受講し、単位を取得できる制度です。

②聴講

大学および大学院で開講している授業科目を受講できる制度です。聴講した科目について成績評価を受けることができますが、単位は取得できません。

③リベラルアーツ・プログラム（K G L P）

社会人を対象として、急速に変貌する社会を読むための技術、知識と、「教養と生き甲斐の追求」の糸口を提供するプログラムです。「国際情勢を読み解く」、「心理とカウンセリング」など、10以上のテーマを設定し、テーマごとに各学部の科目を横断的に履修できるようにパッケージ化して提供しているもので、単位を取得できる制度です。

（2）ビジネスパーソンを対象としたプログラム

T K C ・ 関西学院大学 新月プログラム「税理士のための会計講座」

T K C 全国会と協力し、税理士、会計士を対象とした会計に関する専門性の高いプログラムを提供しています。

（3）社会人を対象としたプログラム

①K. G. ライフワークスクール

社会人を対象として、「文学」、「キリスト教」、「歴史」、「人間関係」など幅広いテーマについて6回程度の講義で構成する講座です。関西学院同窓会と共催し、大阪梅田キャンパスで実施しています。

②オープンセミナー

主に地域住民を対象とした公開講座を春と秋に実施しています。本学の学部、研究科が企画した幅広いテーマの講座を西宮上ヶ原キャンパス、神戸三田キャンパスにおいて無料で提供しています。

③インターカレッジ西宮

西宮市が市内の大学・短期大学との連携によって実施している「インターカレッジ西宮 市民対象講座」に講座を提供しています。

(4) エクステンションプログラム

エクステンションプログラムは、単なる資格取得や就職対策のためだけに開設するのではなく、大学教育の一環として、在学生在が将来の進路を的確に捉え、それに向かう準備をするための支援として位置づけているプログラムです。講座の選定にあたっては、正課の授業の履修との相乗効果を視野に入れて講座内容を審査し、厳選しています。西宮上ヶ原キャンパス、神戸三田キャンパス、大阪梅田キャンパスを活用し、平日の5時限目以降や土曜日を中心に開講しています。同窓生や社会人の方の受講も可能です。

(5) 同窓生のためのプログラム

卒業生就職支援プロジェクト

転職や再就職を希望している同窓生を積極的に支援する仕組みです。ただ登録して待つ一般的な職業紹介や派遣登録とは異なり、導入時研修と資格取得対策講座などの教育コンテンツを主体とし、資格取得やスキルアップも目指していただきながら、専門のスタッフによるコンサルティングによって具体的な就職へとつながります。

6. その他

(1) 入学試験

本学は「“Mastery for Service” を体現する世界市民の育成」というミッションに基づく教育方針に沿って、入学者選抜の方針を定めて入学試験を実施しています。一般選抜入学試験として一般入試、センター利用入試を実施し学力選抜により高い学力を有する生徒を迎え入れています。一般選抜入試のほかに推薦入学も実施し、各校の優秀な生徒を高等学校長の推薦により迎え入れています。さらに特定の分野において優れた能力を有する生徒などを迎え入れるための様々な特色入試も実施しています。特に平成24年度文部科学省グローバル人材育成推進事業の採択を受け、英語能力を有する者や、国際経験を有する者、インターナショナルバカロレア資格を有する者、高等学校模擬国連全国大会に出場した者、科学オリンピックに出場した者、スーパーグローバルハイスクール（SGH）指定校において課題研究に取り組んだ者を出願資格とした「グローバル入学試験」を2014年度入試より、さらには、平成26年度文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業の採択を受け、SGH指定校やスーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校を対象とした公募推薦入学試験を2016年度入試より実施しています。また、高大連携も充実しており、SGH・SSH指定校等との高大連携を積極的に展開しています。なお、本年度の一般選抜入学試験（一般入試・センター利用入試）の志願者数は33,209名、合格者数は9,644名でした。志願者数は一般選抜入試全体で、昨年度比5,617名の減少となりましたが、この減少傾向は本学だけに留まらず、都市部の難関私大ではほとんどの大学が減少という結果となりました。減少の理由としては、入試改革の前年にあたること、近年の定員管理の厳格化により、受験生に強い安全志向が働いたことが大きな要因であると考えられます。本学としては、引き続き、魅力や特徴をよりよく知って頂くため、オープンキャンパスや独自説明会などをはじめとした取組みを継続し、特色ある教育システム、各学部での専門性の高い学びなどにつき情報を提供します。また、高校から大学への円滑な接続のための高大連携事業、文部科学省の高大接続改革に対応した入学試験改革を推進してまいります。

(2) 大阪梅田キャンパス

阪急梅田駅から徒歩数分のアプローチタワー（大阪府大阪市北区茶屋町19-19）10階・14階に大阪梅田キャンパスがあります。経営戦略研究科をはじめ昼夜開講制大学院の授業が数多く開講されています。また、各種の研究会活動、学生の就職活動、同窓会活動、生涯学習の拠点としても活用されています。なお、就職活動の拠点として「キャリアセンター（大阪梅田キャンパス）」が設置されています。

(3) 東京丸の内キャンパス

東京駅日本橋口直近のサピアタワー（東京都千代田区丸の内 1-7-12）10 階にオフィスを構え、東京での関西学院の情報発信、学生の就職活動支援、社会人対象の生涯学習講座（「丸の内講座」、「三日月塾」等）やセミナー等の開講による学習機会の提供、教員の研究活動の支援、同窓生との連携等さまざまな活動の拠点となっています。

（４）同窓会・後援会

本学には卒業後も同窓生としての強い絆で結ばれる機会を提供する「関西学院同窓会」があります。現在、同窓生は約 24 万人におよび、国内 90 支部、海外 28 支部、130 の公認団体等で活発に活動を行っています。また、「関西学院後援会」は、学生・生徒・児童の保護者・保証人の方を会員とし、学生・生徒・児童がより充実した活動を行うことができるようさまざまな事業を行っています。

（５）教育懇談会

保証人を対象に実施している教育懇談会は、大学の教育・研究活動の現状や成果の情報を提供するとともに、保証人が大学の教職員と直接会い、学生個々人の学業成績・学生生活・就職・留学等について相談・懇談をすることができます。2020 年度の開催予定は次のとおりです。

① 地区別教育懇談会

中国地区（岡山）	7 月 4 日（土）※中止
北陸地区（金沢）	10 月 24 日（土）
九州・沖縄地区（名古屋）	11 月 21 日（土）

② 学内教育懇談会

神戸三田キャンパス	9 月 5 日（土）
西宮上ヶ原キャンパス	9 月 19 日（土）

以 上